

平成 21 年 6 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520164
 研究課題名（和文） 改造社を中心とする1920年代出版社による〈大衆〉の獲得
 —戦略とその展開
 研究課題名（英文） Kaizou-sha and other publishing company's procurement of
 the consuming public in the 1920s
 : Their strategy and deployment.
 研究代表者
 庄司 達也（SHOJI TATSUYA）
 東京成徳大学・人文学部・准教授
 研究者番号：60275998

研究成果の概要：

研究活動は、合計13回に及んだ勉強会の開催と、関西地方を中心とした実地踏査を2本の柱として展開した。また、本研究課題が対象とした改造社を取り上げ活動する他の研究グループとの連携を進め、情報交換や合同研究会の開催を行うなどした。これらにより、短期間に全国で一斉に行われた宣伝活動の実態を広く把握することができ、改造社のみではない、他の出版社による同様の活動に対する広範な情報の収集とその分析の必要性を明らかにした。また、関連する資料の収集により、以後に反復される同種の出版企画についての考察を深めた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	1900,000円	570,000円	2470,000円
平成20年度	1600,000円	480,000円	2080,000円
年度			
年度			
年度			
総計	3500,000円	1050,000円	4550,000円

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：国文学、社会学、東洋史、日本史

1. 研究開始当初の背景

本研究課題がその対象とする1920年代という時期は、通信網の発達などによる情報の国際化時代の展開ということを背景に、雑誌、新聞、書籍などの出版メディア・書店が発展し、発行部数を拡張させ、その紙面構成や記事内容も成熟した時代である。文学は、文芸誌にとどまらず総合誌などでも多くの読者

を獲得する要素として意識され、その役割を果たした。本研究グループは、平成17年度及び平成18年度の科学研究費補助金基盤研究（C）[課題番号17520125]を受け、こうした現象を個別研究の枠内で分析・検証するのではなく、消費者としての大衆の獲得を企図した出版メディアが文学を如何に利用し、また、その場において多くの作家たちが如何にその要請に応え協力したのかに注目し、調

査・研究を行ってきたが、更なる調査と分析の必要性を認識し、本研究課題に取り組んだ。

2. 研究の目的

(1) 1920年代後半に一大ブームとなった所謂「円本」と呼ばれる全集出版の嚆矢との位置づけを与えられている改造社の、『現代日本文学全集』出版に際しての宣伝戦略とその実態を明らかにするとともに、実地踏査などによって収集した関連資料と情報の整理を行い、データベース化を図る。

(2) 上記(1)で収集し整理した資料についての分析を踏まえ、当時の作家たちが必然として関わらざるを得なかった「国家」「政治」「文学」の関係性が出版メディアの意図を越えた形で生じ、意識的、無意識的に関わらず時代の潮流に流され、或いは体制内部に組み込まれてきたことのあることを明らかにすべく検討を加える。

(3) 1920年代以降の改造社の出版活動に焦点をあて、それを一つのモデルケースとして捉え、近代出版機構と文学者の関係の変容の様を分析することを目指す。また、改造社以外の出版社による活動にも注目し、その類似点と相違点とを明らかにすることを通して、1920年代の出版メディア全体の在りようを把握する。

(4) 円本ブーム以後に反復される〈全集〉という企画や、それらに関わる広告戦略の解説を通して、出版メディアと文学者、読者の三者関係を総体的に捉え直し、現代に繋がる問題として分析を試みる。

3. 研究の方法

(1) 主として実地踏査を行い、新聞記事、雑誌記事、関係者の回想記など広範な資料の収集を行い、それらの整理とデータベース化を図る。

(2) 当時に発行された各種の「全集内容見本」や宣伝ポスターなどの同時代資料を多く入手し、これらをデータ・ベース化して、上記の(1)と共に本研究課題における基礎文献として活用し、その実態を資料面から明らかにする。

(2) 研究課題として同じ改造社を取り上げ、科学研究費補助金を平成17年度から平成20年度まで受けた「改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」[課題番号17520126]の研究グループをはじめとして、本研究課題に関連する分野を研究の対象とする研究グループとの連携を積極的に進め、情報交換や合同研究会の開催を行うなどして、研究を深める。

(3) 本研究に参加する者が主として報告を行う勉強会を多く開催し、広く知見を深めると共に、この場を参加者相互の情報交換の場として機能させる。また、本研究課題に関わる研究業績を有する隣接諸分野の研究者を招聘した勉強会を催すことによって(チラシやインターネットなどによる広報を行い、研究グループ以外の参加者も多く募ることで)、固定されたメンバーによって生じるであろう研究の閉塞状況を回避し、より広い視野の獲得を目指す。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

① 「円本」ブームの先駆けとなった改造社による『現代日本文学全集』のための営業戦略の核となった「現代日本文学全集講演映画大会」の実態について、現地での調査を行うことで、当時の新聞、雑誌に掲載された記事や広告、或いは回想記などの収集を行い、それらの資料をデータベース化したことで、研究の基礎的な部分に関わる環境を整えつつある。

② 上記①で作成したデータベースの活用を中心に、収集した資料の分析を行った。それにより、これまで、個別の地域や出版社、或いは個々の作家を対象とした研究課題の設定を行ってきた先行研究の在りように対して、より広い視野に立った地点からの分析と考察、すなわち、例えば改造社一社を研究の対象とするようなことではなく、当時の出版メディアを総体として捉えるような視点の獲得(或いは、「文学」というジャンルそれ自体をも解体するような視点の獲得)と課題分析の方法を獲得する必要性を認識し、そこに関わって、これまで行われてきた研究の問題点を明らかにした。

③ 上記②に関わって、特に宣伝活動についての分析の結果として明らかとなった講演会の実態については、「文学」というジャンル、或いは個々の作家の持つ固有性ということに対する価値について、聴衆として参加した者にとっては、その参加した動機の重要な要因としては必ずしも認識されていなかったのではないかという点を、一つの仮説として示すことができた。

④ 1920年代の後半に現れた低価格による「全集」出版という企画のブームが、読者として想定される中産階級の増加を背景に有していることは、これまでにもしばしば言及されてきたことである。その意味では、多くの書肆が、「桃色の幻想」とも呼ばれる中産階級の知的な点に関わる欲望を充足させる役割を担ったことになるのだが、資料の分析を通して、そのことを再確認した。

⑤ 上記④に加えて、出版社による「全集」出版という事業が、検閲などに代表される国家による出版活動への介入への防御と、発行停止処分などによる経済的な損失を未然に防ぐという、実際的な或いは経済的な意味での方策でもあったことを明らかとした。

⑥ 「円本」ブーム以降にも繰り返される「全集」出版という企画が必然として関わったことがらとして、「文学」を商品とした場合における個々の作家の商業的価値ということがある。その個々の内容とは別に商業ジャーナリズムに則った「全集」企画によってそれらは可視化され、読者の前に現れるということについて、そのことに関わる文壇における政治性という点も含め、考察を深めた。

(2) 研究史上の位置づけ

本研究課題は、上記の(1)に述べたことごとについて明らかとしてきたが、このことは、本研究グループが研究の対象とした1920年代における出版メディアについての考察を行う際には、これまで必ずしも包括的に行われてきたとは言い難い研究状況に対して、作家や出版社、読者、或いはジャンルに対する個別の枠組みを超えたより広い視野を獲得した形での分析が求められるものであることを、同時に打ち出すものとなった。

(3) 今後の展望

本研究課題は、1920年代の出版ジャーナリズムをその卓抜した企画力で牽引した改造社を中心とする調査を行ってきたが、本研究課題が明らかにしたように、その実態の把握と分析には、同時代における他の出版社の動向に関する情報の収集はもちろんのこと、異なるジャンルに関わる同種の企画などについての徹底した調査が必要である。

また、以後に反復される「全集」出版という企画の有する政治性については、文壇という「場」に関わる作家、出版社、読者のそれぞれに対する更なる情報の収集と考察を深めることの必要性を確認した。

以上のことによって、現在にも繋がる問題として、近代出版機構と文学者の関係の変容の様を分析すること、また、出版メディアと文学者、読者の三者関係を総体的に捉え直すことが、達成されるのではないかと考えるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 庄司 達也 出版メディアと文学・作家・読者 ——改造社に関する研究会に参加して (『昭和文学研究』5集、123-126、2007年、

査読有)

- ② 杉山 欣也 作家を求める読者、読者を求める作家 ——改造社主催講演旅行実地踏査の印象 (『日本近代文学』77号、203-210、2007年、査読有)

- ③ 山岸 郁子 「大衆」化するということ —〈読者〉と〈市場〉をめぐる—考察 (『語文』129輯、40-51、2007年、査読有)

- ④ 庄司 達也 改造社『現代日本文学全集』の広告戦略とその実態 「現代日本文学全集講演映画大会」を中心に

- ⑤ 杉山 欣也 「昭和改元前後の『改造』 ——大衆化するメディア、広告化する『改造』」

- ⑥ 山岸 郁子 「〈全集〉出版のポリティクス」

注 ④~⑥は、「〈全集〉出版と読者 ——改造社を中心に——」の総題のもとに、『日本近代文学』(2009年5月発行、査読有)に掲載の予定である。

[学会発表] (計5件)

- ① 庄司 達也 「東北地方における改造社『現代日本文学全集』宣伝講演映画会をめぐって」(講演)(岩手郷土文学研究会主催研究会 平成19年9月9日、手県立大学)

- ② 庄司 達也 「東北・北海道に於ける改造社『現代日本文学全集』宣伝講演旅行について ——出版メディアによる「大衆」の獲得——」(全国大学国語国文学会2007年度冬季大会 平成19年12月2日、盛岡大学)

- ③ 庄司 達也 改造社『現代日本文学全集』の広告戦略とその実態 「現代日本文学全集講演映画大会」を中心に(日本近代文学会2008年度秋季大会、2008年10月26日、東北大学)

- ④ 杉山 欣也 「昭和改元前後の『改造』 ——大衆化するメディア、広告化する『改造』」(同前)⑤ 山岸 郁子 「〈全集〉出版のポリティクス」(同前)

注 ③~⑤は、「〈全集〉出版と読者 ——改造社を中心に——」の総題のもとに行ったパネル発表である。司会を掛野剛史が担当した。

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況（計 件）

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

庄司 達也 (SHOJI TATSUYA)
東京成徳大学・人文学部・准教授
研究者番号：60275998

(2) 研究分担者

山岸 郁子 (YAMAGISHI IKUKO)
日本大学・経済学部・准教授
研究者番号：20279821

(3) 連携研究者

掛野 剛史 (KAKENO TSUYOSHI)
埼玉学園大学・人間学部・講師
研究者番号：00453465
須藤 宏明 (SUDO HIROAKI)
盛岡大学・文学部・教授
研究者番号：60275584
中沢 弥 (NAKAZAWA WATARU)
多摩大学・グローバルスタディーズ学部・
講師
研究者番号：20279821
平野 晶子 (HIRANO AKIKO)
昭和女子大学・文学部・講師
研究者番号：10218795
山口 直孝 (YAMAGUCHI TADAYOSHI)
二松学舎大学・文学部・教授
研究者番号：30297741

* 研究協力者として以下の3名が参加した

和泉 司 (IZUMI TSUKASA)
慶應義塾大学留学生センター助手
杉山 欣也 (SUGIYAMA KINYA)
筑波大学・非常勤講師
松村 良 (MATSUMURA RYO)
聖学院大学非常勤講師